

東京版CDC構想案

東京版CDC準備検討委員会(第1回)

東北医科薬科大学 感染症学教室 特任教授

東北大学 名誉教授

賀来 満夫

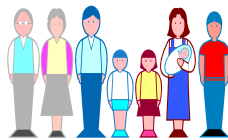
2020年 8月31日

変貌する感染症への対応

- グローバル化と One Health
- 伝播するリスク: 社会全体のリスク
- ソシアルネットワークの構築
- 平時から有事までのシームレスな対応
- 東京版CDCの役割とその機能

感染症は常に起こりえる

- ・人が営む社会生活のなかで、**感染症が伝播しない**ということはありません
- ・医療施設、家庭、学校、職場などの集団生活の場、オリンピックなどの人が集まるイベント、災害時などは特に**感染発症リスク、微生物伝播リスク**が高い



感染症のグローバル化

感染症の原因微生物の多様化(ヒト・動物・環境由来)

- ・**新興感染症** : 新型インフルエンザ, 鳥インフルエンザ, MERS, エボラ出血熱, デング熱, 新型コロナウイルス
- ・**薬剤耐性菌感染症** : MRSA, 多剤耐性アシネトバクター, NDM1等
- ・**環境由来微生物感染症** : 破傷風, レジオネラ, ガス壊疽(震災時)

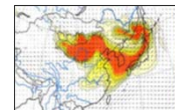


人的交流・交通のグローバル化

動物との接触

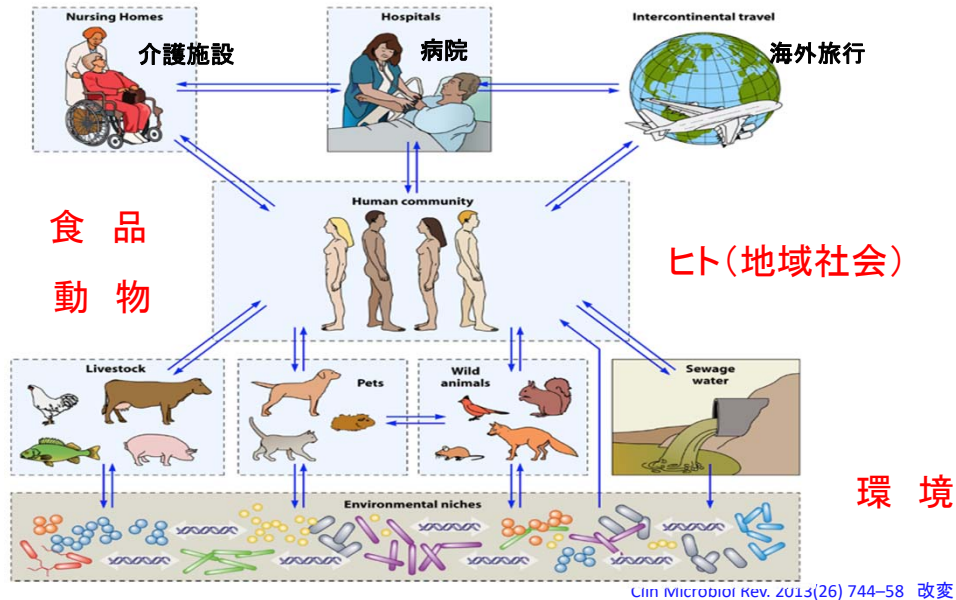
環境・気候変動(震災・地球温暖化・黄砂)

マスギャザリング・バイオテロ



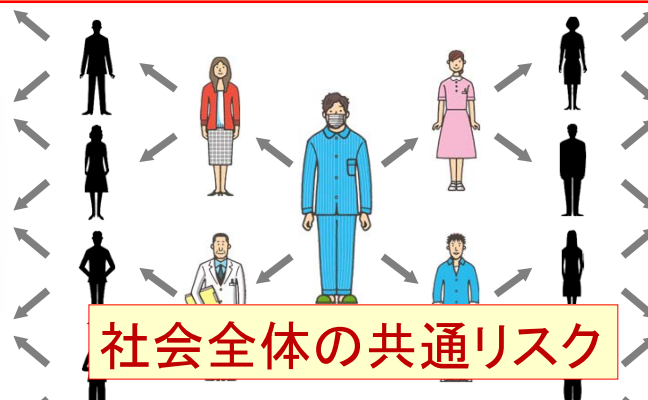
感染症クライシス

One Health: ヒト、動物、環境の連鎖



すべての壁を越える感染症: 伝播するリスク

感染症はすべての人が罹患しうる疾患であり、微生物が伝播するため、個人の疾患としてだけでなく、社会全体の共通リスクとなる。



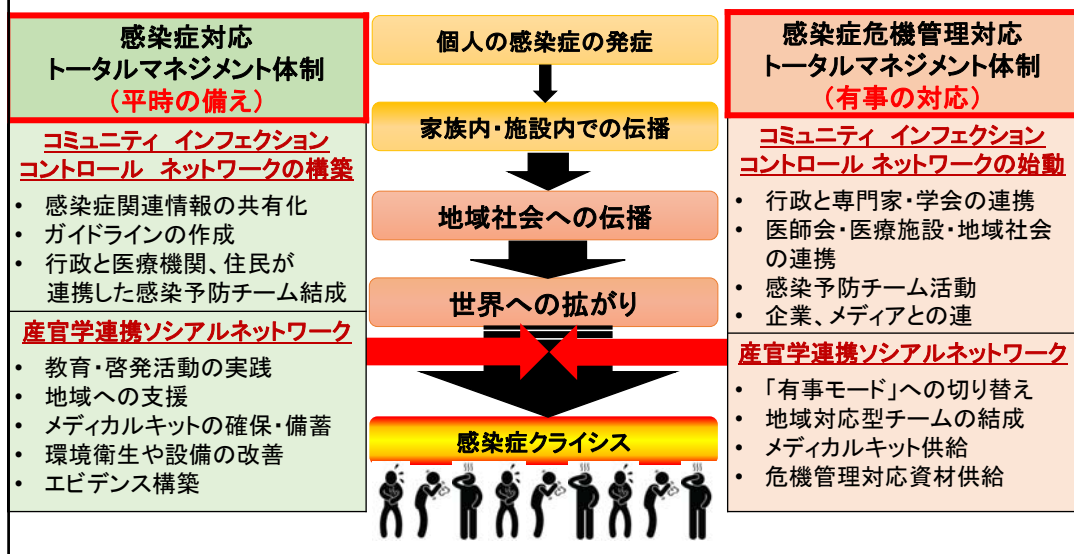
“ 感染症は個人の疾患と共に社会の疾患となる ”

ソーシャルネットワークの構築

- 感染症は社会全体のリスクであるとの認識を共有する
- 感染症の伝播リスクや特殊性を都民・医療従事者・社会社会へ情報提供し、理解を深めていく
- ネットワークを構築し、感染症対策に社会全体で総合的に対応していく

感染症への備えと総合的な対応

平時から有事までのシームレスな対応



感染症トータルマネジメントに必要なスキル

- 公衆衛生学
- 感染症疫学
- 臨床微生物学
- 検査・診断学
- 感染制御学
- 感染症学
- 情報・通信学(コミュニケーションスキル含む)
- 社会人類学
- 食品衛生学
- 獣医学
- 農学工学・化学
- 工学・化学・物理学
- 交通・航空・宇宙学

東京版CDC(仮称): 専門家ボード案

- ① ネットワーク管理(企画調整)
- ② 公衆衛生
- ③ 疫学
- ④ 微生物解析
- ⑤ 検査・診断
- ⑥ 感染制御
- ⑦ 感染症診療
- ⑧ リスクコミュニケーション
- ⑨ 教育啓発・人材育成
- ⑩ リサーチ&デベロップメント

東京版CDC(仮称)の機能と連携－1

1. 専門家ボード

- ①～⑩から構成される専門家ボードを設置する
- 各チームに1名のチームリーダーを置く
- チームリーダーは常に健康危機管理監(仮称)と密接に情報交換・協議を行い、業務を遂行する。
- 各チームは感染症の発生状況・緊急性などにより、専門家を招集し、対応する(数名程度)
- 各チームはそれぞれの領域での最新情報、エビデンス、研究データなどに基づき、東京都CDCに助言を行う。

東京版CDC(仮称)の機能と連携－2

2. 国内機関・大学・医師会・国・民間との連携協力

- ・国立感染症研究所
- ・国立国際医療研究センター
- ・東京都医学総合研究所
- ・理化学研究所
- ・長崎大学(熱帯医学研究所含む)
- ・東京大学(東京大学医科学研究所含む)
- ・東北大学(東北メディカル・メガバンク機構含む)
- ・東京都医師会、日本医師会
- ・日本赤十字社
- ・厚生労働省、文部科学省、内閣官房
- ・民間企業、メディア

各施設と連携協力し、感染症危機管理の実践、共同研究、人材育成などを行う

国内・国外(ワールド)外部アドバイザー

3. 外部アドバイザー

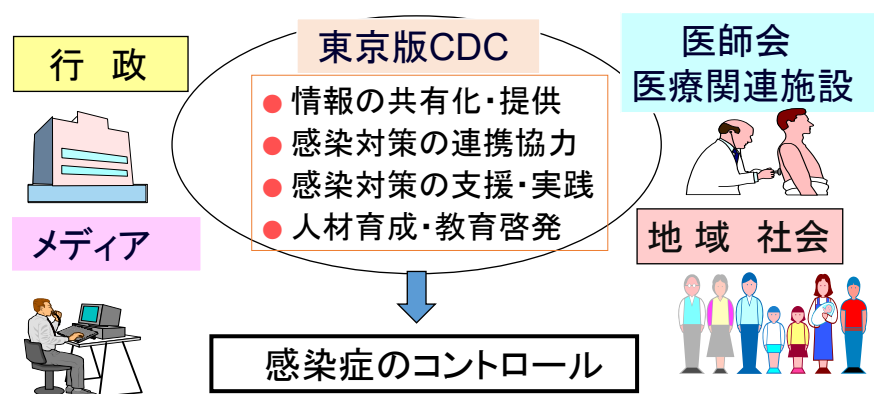
・国内アドバイザー

国立感染症研究所 所長 脇田隆字
日本感染症学会 理事長 舘田一博

・国外(ワールド)アドバイザー

人選について検討中

東京版CDCと感染制御ソーシャルネットワーク



- 社会における情報共有化システム
- 微生物・感染症関連知識の理解増進、行政・住民の連携
- 感染制御の実践による安全・安心な社会の構築